

	ゼミナール名	ゼミナール II (経営学)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	火曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業の経営戦略を事例研究する。 同一産業分野の2つ以上の会社の経営を比較し、業績の差の原因を考える。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。
ゼミの概要	研究対象とする企業または産業を1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	研究対象としたい企業、産業を具体的に持っており、その理由が説明できること。 3年間研究し、4年次に研究発表を原則として行うこと。
テキスト	特にありません。
参考文献・資料	特にありません。
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週水曜日・金曜日 13:00~15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業を研究調査して、自分の就職活動に活かしましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション 研究倫理教育:研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	企業調査、
第2回	研究対象企業の候補探し	第18回	企業調査
第3回	研究対象企業の候補探し	第19回	企業調査
第4回	研究対象企業の候補探し	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業の選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業の選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業の選択	第26回	企業調査
第11回	企業調査	第27回	企業調査
第12回	企業調査	第28回	企業調査
第13回	企業調査	第29回	企業調査
第14回	企業調査	第30回	企業調査
第15回	企業調査	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（行動科学）		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学やその基礎としての行動科学の研究枠組みを理解し、説明ができる。 2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。
ゼミの概要	<p>前期では、まず社会学に関するテキストを読み、社会学の対象と方法を理解するとともに、行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。</p> <p>後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。</p>
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい（1.5時間程度）。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと（1.5時間程度）。
履修条件	<p>「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得済みであること、または教職課程の所定の科目を修得し、次年度に教育実習を行う予定であることが望ましい。なお、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認定しない。</p> <p>・今年度中に「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること（または修得済みであること）</p> <p><u>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しない。</u></p>
テキスト	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会、2001.
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 40%、平常点 40%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。</p> <p>なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について）	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（社会学とは何か）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（社会学の方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	問題意識の明確化	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	研究テーマの設定	第21回	文献講読⑪（エスニシティと国家）
第6回	研究テーマの報告・グルーピング	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	文献講読③（自我とコミュニケーション）	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	文献講読④（集団と組織）	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（文化と社会化）	第25回	文献講読⑫（大衆社会と政治）
第10回	文献講読⑥（同調と逸脱）	第26回	文献講読⑬（メディアと大衆）
第11回	文献講読⑦（家族と社会）	第27回	文献講読⑭（現代社会と宗教）
第12回	文献講読⑧（教育と市民社会）	第28回	文献講読⑮（現代社会の諸相）
第13回	文献講読⑨（職業と階層）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（地域社会と生活）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（観光学）		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2時限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「観光学」を自分のものにする
ゼミの到達目標	実践的に「観光」を学ぶ方法を理解し、全体を俯瞰できるようになる。
ゼミの概要	<p>観光学は、実は面白くて役に立つ学問です。その観光学を実践的に楽しく学ぶことがこのゼミナールの1年間のミッションです。そして、3年生にとって重要なのは、後期に実施される卒業試験に合格すること、そして将来の就職に向けて少しずつ準備をすることです。そこで、ゼミナールⅡ（観光学）では、就職活動を行う際に、私は大学で「観光の〇〇」を学んだということを、自信をもって言えるように、各自の興味・関心をもとに、メンバーと話し合ったうえで、フィールドワークを含めた観光学の実践的研究を1年かけて行います。</p> <p>観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」を起こすことを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
授業時間外の学習	ゼミナールの課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体験ゼミナールに参加すること。 2. 観光学を実践的に学ぶ意欲があること。 3. ゼミ行事(高杉祭、イベント、旅行、食事会など)に積極的に参加する意欲があること。 4. 無断欠席やネガティブな言動をしないこと。
テキスト	適宜資料をポータルサイトで配布します。(特定のテキストは使用しません)
参考文献・資料	ゼミナールの時間およびポータルサイトで適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・提出物(30%)・ゼミ活動への参加状況・姿勢(40%)
オフィスアワー	毎週月曜日1時限(9:00~10:30) 毎週木曜日2時限(10:40~12:10)
学生へのメッセージ	<p>ゼミナール担当の井上寛は、学生時代より四半世紀、一貫して観光をテーマに学び続けています。実学である「観光」はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思っています。その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめゼミ旅行やコンパなどのゼミ行事も「楽しいグループワーク」です。積極的に参加し、相手をいたわり一緒に楽しみ喜びを分かち合えることのできる学生の履修を希望します。</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション／研究倫理教育	第16回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第17回	研究課題の中間報告Ⅰ
第3回	観光学の可能性	第18回	研究課題の中間報告Ⅱ
第4回	持続可能な観光1	第19回	観光学を多面的に捉える1
第5回	持続可能な観光2	第20回	観光学を多面的に捉える2
第6回	観光フィールドワークの方法1	第21回	観光学を多面的に捉える3
第7回	観光フィールドワークの方法2	第22回	ゼミ論の書き方
第8回	研究課題のディスカッション1-1	第23回	調査データの活用方法
第9回	研究課題のディスカッション1-2	第24回	観光学を多面的に捉える4
第10回	総合学習	第25回	観光学を多面的に捉える5
第11回	観光フィールドワークの方法3	第26回	観光学を多面的に捉える6
第12回	観光フィールドワークの方法4	第27回	就職活動に向けて
第13回	研究課題のディスカッション1-3	第28回	研究課題の発表Ⅰ
第14回	研究課題のディスカッション1-4	第29回	研究課題の発表Ⅱ
第15回	前期の振り返り	第30回	後期の振り返り
		第31回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（刑事法）		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	事例で学ぶ刑法
ゼミの到達目標	<p>受講者は、本ゼミナールを履修することによって、刑法・刑事訴訟法に関する基礎的知識に基づいて、自ら選択した事例について考察し、以下のことができるようになる。</p> <p>1) 刑法の重要問題に関する判例・学説の整理・説明 2) 刑事訴訟法の重要問題に関する判例・学説の整理・説明</p>
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、事例演習を通じて、刑事法（刑法・刑事訴訟法）の理解をより深めます。また、本ゼミナールでは、事例演習を通じて、受講者に刑法・刑事訴訟法の重要問題から関心のあるテーマを1つ選択して、ゼミナールⅢで完成させるゼミ論文の土台となるゼミレポートを提出してもらう予定です（成績評価の方法を確認すること）。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書等を用いて、自ら選択した事例に関する報告レジュメを作成すること。（予習：120分） 毎回扱った内容についてレジュメ等を使って振り返ること。（復習：120分）
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 学生生活入門Ⅰ・Ⅱ、法律事例研究Ⅰ・Ⅱ、刑法総論、刑法各論、外国法制研究の単位を修得済みであること。 刑事訴訟法、刑事政策を今年度必ず履修すること。 体験期間中に出席し、その際に履修条件の確認を含めた面談を受けること。 <p>上記の条件は必要条件であるから、これらの条件を充たさない者は履修を認めない。</p>
テキスト	<p>島田聡一郎・小林憲太郎『事例から刑法を考える[第3版]』有斐閣（2014） 長沼範良ほか『演習刑事訴訟法』有斐閣（2005）</p>
参考文献・資料	<p>松宮孝明『刑法総論講義[第5版補訂版]』『刑法各論講義[第5版]』成文堂（2018・2018）；宇藤崇ほか『刑事訴訟法[第2版]』有斐閣（2018）；酒巻匡『刑事訴訟法[第2版]』有斐閣（2020）</p>
成績評価の方法	<p>ゼミレポート50%、授業への参加状況（報告・質疑応答など）30%、定期試験20%</p> <p>※ゼミレポートについては、1枚あたり40字×30行の用紙設定（A4サイズ）で最低6枚以上のものの提出を求める予定です。また、高杉祭等の公開の場での報告会も予定しています。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	金曜3・4限
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>ゼミナールは学生同士の主体的な学びの場になりますので、積極的な参加（発言）を求めます（報告レジュメを作成することはもちろん、報告しない学生もレジュメを確認するなどして、積極的に発言できるように準備してください。発言のなかった学生は欠席として扱います）。</p> <p>また、これも当然のことを述べることになりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です（無断欠席等があった場合、それ以降の履修を認めません）。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション[講義の進め方など] ※研究倫理教育（「研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について」）も実施	第17回	第3回事例報告①
第2回	第1回事例報告①	第18回	第3回事例報告②
第3回	第1回事例報告②	第19回	第3回判例報告③
第4回	第1回事例報告③	第20回	第3回判例報告④
第5回	第1回事例報告④	第21回	第3回判例報告⑤
第6回	第1回事例報告⑤	第22回	第3回判例報告⑥
第7回	第1回事例報告⑥	第23回	まとめ③
第8回	まとめ①	第24回	第4回事例報告①
第9回	第2回事例報告①	第25回	第4回事例報告②
第10回	第2回事例報告②	第26回	第4回事例報告③
第11回	第2回事例報告③	第27回	第4回事例報告④
第12回	第2回事例報告④	第28回	第4回事例報告⑤
第13回	第2回事例報告⑤	第29回	第4回事例報告⑥
第14回	第2回事例報告⑥	第30回	まとめ④
第15回	まとめ②	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（社会政策）		
	ゼミ担当者名	木村 澄		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人間の一生をどのように保障するのか」
ゼミの到達目標	日本の「社会保険と労働」に関する各種の法的制度を概略的に理解して、みなさんの職業生活と人生において活かせるようにすることを目標とします。
ゼミの概要	日本の「社会保障制度」と「労働法制」について、テーマ別に概観して行きます。毎回の発表はありません。
授業時間外の学習	配付するレジュメを見れば簡単な予習ができます。そうすることで、次のゼミの内容の理解が容易になります。また、簡単な復習をすることで、ゼミの内容の理解を深めることができます。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間に資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p>【出席状況（50%）、中間試験（25%）期末試験（25%）】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、小テストを行うことがあります。 ・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板（ポータルサイト含む）で指示をします。 <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	毎週火曜日3時間目（13：00～14：30）・木曜日4時間目（14：40～16：10） ※これら以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀（90～100点）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（0～59点）
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立つゼミです。 「わかる・できるようになる」を大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。 食事会（焼肉！寿司！）で交流を図りましょう！！

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	「研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について」後期オリエンテーション
第2回	社会政策の理論 (1)	第18回	医療保険制度 (1)
第3回	社会政策の理論 (2)	第19回	医療保険制度 (2)
第4回	社会政策の理論 (3)	第20回	医療保険制度 (3)
第5回	社会政策の理論 (4)	第21回	年金保険制度 (1)
第6回	社会政策の理論 (5)	第22回	年金保険制度 (2)
第7回	社会政策の理論 (6)	第23回	労働者災害補償保険制度 (1)
第8回	社会保障制度の生成	第24回	労働者災害補償保険制度 (2)
第9回	社会保障の役割と方法	第25回	労働者災害補償保険制度 (3)
第10回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (1)	第26回	雇用保険制度 (1)
第11回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (2)	第27回	雇用保険制度 (2)
第12回	日本の社会保障の歴史的発展 (1)	第28回	介護保険制度 (1)
第13回	日本の社会保障の歴史的発展 (2)	第29回	介護保険制度 (2)
第14回	生活保護法 (1)	第30回	介護保険制度 (3)
第15回	生活保護法 (2)	第31回	まとめ
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（財務会計）		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日商簿記3級・日商簿記2級、税理士簿記論、宅建士、FP等の資格取得を目指します。
ゼミの到達目標	1年間で日商簿記3級を全員取得後、各自の資格取得に向けて勉強をしてもらう。
ゼミの概要	各学生の目標にそって各自がその資格取得に取り組む。
授業時間外の学習	オフィスアワーの時間を利用して問題演習を実施する。
履修条件	自分の目標に向けて真面目に取り組める学生
テキスト	各学生の取得希望資格によりテキストを指定します。
参考文献・資料	
成績評価の方法	授業態度・検定試験の合否・自分の目標を持っているかどうかを見て評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日4時間目・金曜日4時間目
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	近年、楽な方に楽な方に流れる学生が多い。積極的に目標に向かって努力する人を希望します。

授業計画（日商簿記の勉強計画の一例）			
第1回	研究倫理教育・面接	第17回	2級合格者は1級の授業 2級不合格者は問題演習
第2回	仕訳演習 問題演習	第18回	2級合格者は1級の授業 2級不合格者は問題演習
第3回	試算表問題演習 過去問題演習	第19回	2級合格者は1級の授業 2級不合格者は問題演習
第4回	試算表問題演習 予想問題演習	第20回	直前問題演習
第5回	決算整理と諸表作成 過去問題演習	第21回	直前問題演習
第6回	決算整理と諸表作成 予想問題演習	第22回	直前問題演習
第7回	日商簿記2級検定試験直前演習 仕訳	第23回	直前問題演習
第8回	日商簿記2級検定試験直前演習 試算表	第24回	直前問題演習
第9回	日商簿記2級検定試験直前演習 P/L	第25回	2月試験への2級不合格者問題演習
第10回	日商簿記2級検定試験直前演習 B/S	第26回	2月試験への2級不合格者問題演習
第11回	2級合格者は1級の授業 2級不合格者は問題演習	第27回	2月試験への2級不合格者問題演習
第12回	2級合格者は1級の授業 2級不合格者は問題演習	第28回	2月試験への2級不合格者問題演習
第13回	2級合格者は1級の授業 2級不合格者は問題演習	第29回	2月試験への2級不合格者問題演習
第14回	2級合格者は1級の授業 2級不合格者は問題演習	第30回	2月試験への2級不合格者問題演習
第15回	2級合格者は1級の授業 2級不合格者は問題演習	第31回	面接
第16回	定期試験・面談	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（安全保障論）		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障について学び、問題点となる事項について研究・討議する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。 8 安全保障に関し、選択したテーマについて自己の意見を述べ、解説することができる。
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は安全保障体制や安全保障政策についてゼミナールⅠで研究した事項をもとに解説するとともに、学生が選択したテーマに沿って研究します。後半は、重要問題から関心のあるテーマを1つ選択し、ゼミナールⅢで行うゼミ論文の前提となるゼミレポートを作成し、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 ・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。 <p>（予習 2時間程度、復習 2時間程度）</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1 次の①～⑤の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> ①学生生活入門Ⅰ・Ⅱ（または総合科目Ⅰ・Ⅱ）の単位を修得済みであること。 ②国際関係論、統治機構、行政学Ⅰ・Ⅱ、公共政策論、地域政策論、民法総則、観光法規、観光社会学、社会調査の仕方、国際研究入門、世界政治学Ⅰ、世界政治学Ⅱ、国際法のうちいずれかの単位を修得済みであること。 ③国際関係論特別講義を同時履修すること。 ④第1回の前半または後半に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは第1回ゼミナール時に配布する。）。 ⑤履修登録にあたっては、第1回ゼミナール時に担当教員と面接の上、履修許可を得ること。 2 安全保障論ゼミナールⅠの単位を修得済みであることが望ましい。 3 国際人道法、安全政策論、防災学概論、現代政治論との同時履修であることが望ましい。 4 ゼミナールは討議により進めるので、時間中に発言のない場合は出席と認めないことがある。

テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	防衛白書（令和4年版）、外交青書（令和4年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウエッジ）
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミレポート50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日14:40～16:10・水曜日14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 早期に研究発表・レポート作成に入ることができるようにするため、安全保障論の体系的な学習と平行して、毎回安全保障に関するトピックについて討議します。後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について） 安全保障のまとめ（ゼミナールⅠのふりかえり）	第17回	レポート作成準備・テーマの確認・研究の方向性
第2回	国家・領域の問題とは	第18回	文献検索・中間指導（グループ1）
第3回	我が国の領土問題	第19回	文献検索・中間指導（グループ2）
第4回	防衛政策とは	第20回	文献検索・中間指導（グループ3）
第5回	我が国の防衛政策	第21回	中間報告（グループ1）
第6回	防衛と治安維持	第22回	中間報告（グループ2）
第7回	広義の安全保障①	第23回	中間報告（グループ3）
第8回	広義の安全保障②	第24回	個別指導①
第9回	安全保障と自治体の役割	第25回	個別指導②
第10回	武力攻撃事態とその対処	第26回	学科発表会に向けてのプレゼン準備①
第11回	国民保護法	第27回	学科発表会に向けてのプレゼン準備②
第12回	国際連合の動き	第28回	学科発表会に向けてのプレゼン準備③
第13回	紛争の平和的解決手段	第29回	特別講義①（ゲストスピーカー）
第14回	国際平和協力活動①	第30回	特別講義②（ゲストスピーカー）
第15回	国際平和協力活動②	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（経済分析・データサイエンス）		
	ゼミ担当者名	田村 英朗		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>1. 研究のための基礎的能力を養成すると共に、各自の興味・テーマに応じて「経済理論」、「計量経済学」または「データサイエンス」の手法を学び、議論し、研究することにより、大学生活の仲間と共に成長する。</p> <p>2. 就職活動において、企業にPRできる研究活動を行う。</p>
ゼミの到達目標	<p>1. 自分で関心のある研究テーマを見つけ、大学の授業およびゼミナールで得た知識および分析手法と収集したデータを用いて有意義な知見を引き出せるようになること。</p> <p>2. 社会もしくは企業の課題解決に自ら貢献したいというマインドを形成すること。</p>
ゼミの概要	<p>本ゼミは3年次のゼミナール大会へ向けた2年間の研究課程の2年目の位置づけとしている。2回のガイダンスの後、研究計画テーマの発表（Ⅰからのメンバー）、今後関心のある研究テーマの発表・仮グループ編成（Ⅱからのメンバー）を行い、第11回までの輪読（分析手法習得）と並行して、研究計画書に基づく活動（Ⅰからのメンバー）および参考文献とデータの収集（Ⅱからのメンバー）を進め、ゼミナール大会での好成績を目指して活動する。ゼミナール大会後にコメント等を踏まえながら、卒業論文へ向けての計画書を作成する。</p>
授業時間外の学習	<p>第11回までは紹介された「経済理論」、「計量経済学」または「データサイエンス」の手法について自ら学習して理解を深めること。第3回以降はゼミナール大会へ向けてグループメンバー間で取り決めた役割分担（資料収集、データ収集、データ入力、データ分析、論文およびパワーポイント作成等）の担当部分について責任を持ち、期限を守って作業を進めること。また、ゼミナール大会以降は卒業論文計画書作成に当たっての担当部分について同様に進めること。</p>
履修条件	<p>1. 計量経済学（経済データ解析論）を履修済もしくは履修予定であること。また、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ゲーム理論を履修済、履修中もしくは履修予定であるのが望ましい。</p> <p>2. 履修登録に先立ち教員と面談し、履修の許可を得ること。</p> <p>3. ゼミナールメンバー間の意見交換、研究グループの役割分担等に積極的に参加すること。</p>
テキスト	各グループの研究テーマに応じて適宜指示する。
参考文献・資料	<p>1. 田村英朗(2022)「コロナ感染率制御のミクロ経済学的分析ー飲食業を中心としてー」『経済論集』第20号 ノースアジア大学</p> <p>2. 各グループが主体的に収集した研究テーマに関する参考文献・資料</p>
成績評価の方法	<p>ゼミおよび関連行事への参加と取り組み姿勢 40%、研究成果の発表と貢献度 30%、定期試験 30%の割合で評価する。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができない。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日～木曜日の第4時限の時間帯</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ研究報告の基本となる重回帰分析の基礎を学び、エクセルを用いて独自の分析ができるようになります。また、分散分析、多変量解析、ゲーム理論など分析目的に合わせた手法も学びます。これらのスキルは企業・官公庁でも役に立ち、将来の労働環境の改善につながることができます。興味を持つ研究テーマを定め、社会の問題解決に繋がる研究活動を目指して頑張りましょう。</p>

授業計画		
第1回	ガイダンス① 研究倫理教育	第17回 研究③ データ収集状況、分析手法、分析結果の中間報告(グループ A)
第2回	ガイダンス② ゼミナール活動方針の説明と話し合い	第18回 研究④ データ収集状況、分析手法、分析結果の中間報告(グループ B)
第3回	研究① 研究計画テーマの発表 (Iからのメンバー)、今後関心のある研究テーマの発表・仮グループ編成 (IIからのメンバー)、	第19回 研究⑤ データ収集状況、分析手法、分析結果の中間報告(予備日)
第4回	輪読① 経済分析事例研究 (田村(2022))	第20回 研究⑥ パワーポイント作成状況報告(1)
第5回	輪読② 重回帰分析の基礎	第21回 研究⑦ パワーポイント作成状況報告(2)
第6回	輪読③ 重回帰分析の応用 (PC 持参、エクセル操作)	第22回 ゼミナール大会予行練習、想定問答
第7回	輪読④ 分散分析の基礎	第23回 ゼミナール大会 (予選)
第8回	輪読⑤ 分散分析の応用 (PC 持参、エクセル操作)	第24回 ゼミナール大会 (決勝)
第9回	輪読⑥ 多変量解析の基礎	第25回 研究⑧ ゼミナール大会コメント対応方針 (課題抽出)、追加参考文献の発表
第10回	輪読⑦ 多変量解析の応用 (PC 持参、エクセル操作)	第26回 卒業試験対策 (第2回)
第11回	輪読⑧ ゲーム理論のスポーツへの応用 (PC 持参、エクセル操作)	第27回 輪読⑫ 追加参考文献(1)
第12回	研究② 研究テーマおよびグループ確定、先行研究確認、参考文献・データ収集など役割分担等の話し合い	第28回 輪読⑬ 追加参考文献(2)
第13回	輪読⑨ 参考文献(グループ A)	第29回 研究⑨ 卒業論文計画書発表・質疑応答、就活向け PR 練習(グループ A)
第14回	輪読⑩ 参考文献(グループ B)	第30回 研究⑩ 卒業論文計画書発表・質疑応答、就活向け PR 練習(グループ B)
第15回	輪読⑪ 参考文献(予備日)	第31回 研究⑪ 卒業論文計画書発表・質疑応答、就活向け PR 練習(予備日)
第16回	定期試験	第32回 定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（政治学・行政学）		
	ゼミ担当者名	中村逸春		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会とは何か？ 社会と個人との関係はどうあるべきか？ 私のゼミナールでは、こうした問いについて、政治学や行政学の文献を読み議論することを通じて、一緒に考えていければと思っています。
ゼミの到達目標	政治学の文献を読解する力と、他のゼミ生と議論する力を習得すること。 社会科学的な思考を身につけること。ゼミ論文を執筆するための能力を涵養すること。
ゼミの概要	<p>①前期から後期の途中までは、政治学・行政学について幅広く学ぶため、次の二冊をテキストとして読み進める予定です。</p> <p>(a) 宇野重規『民主主義のつくり方』（または早尾貴紀『国ってなんだろう？：あなたと考える「私と国」の関係』か、山本昭宏『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』）</p> <p>(b) 島田明夫編著『人口減少社会に対応したまちづくり法制：東北大学公共政策大学院ワークショップの研究』</p> <p>毎回、指定箇所を事前に読んできて、当日は全員で話し合う、という形でゼミを進めます。テキストは専門書ではなく一般読者向けの新書などですので、比較的読みやすいと思います。</p> <p>②後期の途中からは、個人研究に取り組んでもらう予定です。</p>
授業時間外の学習	テキストを読んで分からないことがあれば、図書館やウェブを通じて調べておくこと（2時間）。
履修条件	<p>①第1回または第2回のガイダンスに出席すること（出席できない場合は、第1回のガイダンスの前までに、7階の研究室に一度お越しください）。</p> <p>②担当者の「ゼミナールⅠ」、「政治学」、「西洋政治思想史」、「生活と政治」、「生活と政治Ⅰ」、「生活と政治Ⅱ」のいずれかの単位を修得していること（修得していない場合は、第1回のガイダンスの前までに、7階の研究室に一度お越しください）。</p>
テキスト	島田明夫編著『人口減少社会に対応したまちづくり法制』東北大学出版会、2022年。 宇野重規『民主主義のつくり方』筑摩選書、2013年（1500円）。
参考文献・資料	早尾貴紀『国ってなんだろう？：あなたと考える「私と国」の関係』平凡社、2016年（1400円）。 山本昭宏『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』中公新書、2021年（920円）。
成績評価の方法	発言や報告などの取り組み姿勢（60%）とレポート（40%）によって評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>(1) ゼミの内容に関心を持たれた方は、気軽に7階の研究室にお越しください。</p> <p>(2) 政治に強い関心がなくても、特に問題はありません。政治（社会）とは何か、学問とは何なのか、一緒にゼミで考えましょう。なお学生同士で話し合う機会が多いゼミです。</p> <p>(3) 大人数にはならないと思いますので、5～6名ほどの少人数が好みの人にはお勧めです。</p> <p>(4) 公務員試験の勉強について、ある程度は助言ができると思います。</p> <p>(5) ゼミナール発表会は法学部のものに参加しますので注意してください。</p>

授業計画			
第1回	第1回ガイダンス	第17回	後期のゼミ活動についての説明、個別面談
第2回	第2回ガイダンス	第18回	人口減少社会とまちづくりの問題点① 『人口減少社会』
第3回	研究倫理、ゼミ内の役割分担	第19回	人口減少社会とまちづくりの問題点② 『人口減少社会』
第4回	アメリカという夢 『民主主義の作り方』	第20回	立地適正化計画 『人口減少社会』
第5回	プラグマティズムと経験 『民主主義の作り方』	第21回	映像視聴
第6回	戦後日本における経験 『民主主義の作り方』	第22回	現地視察・ヒアリングを通して見えたまちづくりの課題 『人口減少社会』
第7回	閉じ込められた自己 『民主主義の作り方』	第23回	個人研究についての説明、個人面談
第8回	依存への恐怖 『民主主義の作り方』	第24回	今後のまちづくり 『人口減少社会』
第9回	個人面談、公務員試験の情報と対策	第25回	まちなかの空き地・空き家の利活用 『人口減少社会』
第10回	狭まった対話の回路 『民主主義の作り方』	第26回	エリアマネジメント 『人口減少社会』
第11回	偶然から秩序へ、習慣と変革 『民主主義の作り方』	第27回	自然災害に強いまちづくり① 『人口減少社会』
第12回	映像視聴	第28回	個人研究の進捗状況のフォロー、個人面談
第13回	民主主義の習慣 『民主主義の作り方』	第29回	自然災害に強いまちづくり② 『人口減少社会』
第14回	「社会を変える仕事」とは？ 『民主主義の作り方』	第30回	個人研究の発表①
第15回	被災地に生きる 『民主主義の作り方』	第31回	個人研究の発表②
第16回	レポート	第32回	レポート

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（人間科学）		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児（にしまき じょうじ）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間とふるまいー経済活動をする「人間」とはー
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の中で、どのようにふるまえばよいのか、という行為の諸問題を、自分自身の身近な問題として考える習慣を身につけることができる。 ・人間のふるまい／行為についての基礎的内容、基本的概念を他者に説明することができ、あわせて、その学説や思想を自己の人格形成に努めるための必要な道具立てとすることができる。
ゼミの概要	人間のふるまい、あるいは人間の行為に関わる諸問題について考えていく。一例としては、人間のふるまいを「効用」という視点からとらえ、経済学に結び付けて考えた理論もあるように、われわれの経済活動の源には、人間の「ふるまい」がある。人間には、「真・善・美」という3つのキーワードを用いて、「何を知ることができるのか」、「何をなすべきなのか」、そして「どう感ずるのか」を問うてきた歴史がある。このゼミナールⅡでは、その中でも、「何をなすべきなのか」という人間のふるまい、あるいは自己の在り方・生き方について、西洋の先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、考えていく。
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度)</p> <p>授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。また、講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくこと。また、研究発表に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：(1.5時間程度)</p> <p>毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間のふるまい／行為」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を本教員に直接表明し、面談を受けることが、第二条件である。 ・本ゼミナールでは、研究発表大会などに出場することがゼミナールに参加する絶対の条件となっている。 ・講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくことが全員に義務づけられる。 ・本年度、「人間関係論」を履修することが義務づけられる。
テキスト	特に指定はしない。ポータルサイトにて、毎回事前に配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も適宜使用する。
参考文献・資料	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫 カント『道徳形而上学の基礎づけ』光文社古典新訳文庫
成績評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出してもらうリアクションペーパーによる理解度（20%）、発表時の内容（30%）と、定期試験（50%）を総合して、最終的な評価を下す。また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日10:40～12:10 木曜日10:40～12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考える様々なヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。
----------------------	--

授業計画			
第1回	ガイダンスα： ・ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方 ・研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開
第2回	ガイダンスβ： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第18回	人間のふるまいへの問いの次元(3)： 自由の諸相
第3回	人間のふるまいへの問いの次元(1)： 功利主義と経済活動	第19回	近世ヨーロッパにおける人間への問い(1)： デカルトの人間観
第4回	人間のふるまいへの問いの次元(2)： 行為の問題がなぜ生ずるのか	第20回	近世ヨーロッパにおける人間への問い(2)： カントの意志の自由について
第5回	よく生きるとは：ソクラテスの人間観	第21回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①
第6回	善のアイデアとは：プラトンの人間観	第22回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②
第7回	幸福と中庸の徳とは：アリストテレスの人間観	第23回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(1)
第8回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(1)	第24回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(2)
第9回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(2)	第25回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(3)
第10回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(3)	第26回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(4)
第11回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(4)	第27回	功利主義の思想について(1)： 「最大多数の最大幸福」という考え方について
第12回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(5)	第28回	功利主義の思想について(2)： 社会的自由について
第13回	人間の幸福観に関するディスカッション	第29回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会①
第14回	レポート完成計画Ⅰ：(レポート執筆の準備) 文献の探し方、文献注記の書き方など	第30回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会②
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（表現文化）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日本やイギリスの文化・文学を学び、大学生にふさわしい教養を身につける。
ゼミの到達目標	<p>このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 国内外の優れた文学に触れ、その主題や特色を文化的背景も含めて理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした研究を行い、論述や口頭で発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化や文学をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（3時間以上・発表前のみ）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します（1～2時間程度）。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> ① 「表現文化ゼミナールⅠ」を履修し、単位を修得した人。または、「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」「世界文学としての日本文学」のいずれかを履修して単位を修得しており、今年度上記の中の1科目以上を履修する意欲があること。 ② <u>前期の履修登録期間中（体験ゼミナール1回目・2回目、もしくは指定された時間）に担当教員と面談し、登録の許可を得ること（事前に面談せず、履修登録だけを行った場合は、単位を認定できません）。</u> ③ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、ゼミの課題には積極的に取り組み、学則は遵守すること。
テキスト	ポータルサイトに掲載するか、授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆の意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業の中で随時、紹介していきます。君塚直隆『イギリスの歴史』（河出書房新社 2022年）他
成績評価の方法	<p>【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない場合は、単位を認定できない場合があります。 <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	火曜日 13時00分～14時30分 / 木曜日 13時00分～14時30分 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	皆さんには夢がありますか？将来の進路をどのように考えていますか？実は、そのような質問をしたり、考えたりできることは、とても幸せなことなのです。この地球上には、そんなことを考える余裕もない、ただ生きていくだけで精一杯の子どもや若者たちが数多く存在しています。視野を広く、そして心を豊かにするために、皆で国内外の文化・文学を学んでいきましょう。
----------------------	--

授業計画			
第1回	表現文化と研究倫理	第17回	キャリア・プランニングⅡ
第2回	絶景をめぐる世界遺産の旅	第18回	文学でめぐる世界遺産の旅
第3回	研究テーマについて	第19回	文化遺産の保全と活用
第4回	ギリシア・ローマ文化と世界遺産	第20回	文化研究の方法
第5回	キリスト教と世界遺産	第21回	小説を読むための技法
第6回	ルネッサンスと世界遺産	第22回	優れた文学作品を読む
第7回	イギリスの歴史と文化ー中世ー	第23回	優れた戯曲を読む
第8回	イギリスの歴史と文化ー絶対王政ー	第24回	研究テーマを深めるために
第9回	イギリスの歴史と文化ー近代Ⅰー	第25回	論文を読む
第10回	イギリスの歴史と文化ー近代Ⅱー	第26回	論証型レポートの書き方
第11回	イギリスの小説を読む	第27回	グループディスカッションの実践
第12回	アカデミック・ライティングのスキル	第28回	プレゼンテーションの技術Ⅱ
第13回	プレゼンテーションの技術Ⅰ	第29回	プレゼンテーションの実践Ⅱ
第14回	プレゼンテーションの実践Ⅰ	第30回	プレゼンテーションの振り返り
第15回	キャリア・プランニングⅠ	第31回	キャリア・プランニングⅢ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（日本経済のマクロ分析Ⅱ）		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学的視点から、日本経済の問題点を探りその実態を明確にする。3年次は大きな問題点を個別に掘り下げる。
ゼミの到達目標	日本経済の主要な問題点である、公的社会保障問題、マイナス金利まで踏みこんだ金融政策の収束方法という金融政策問題、そして日本の国家財政の3点に絞って深く学びます。
ゼミの概要	3年次ということで、上記の2点について深く学ぶため輪読と意見発表の展開で進めます。3点についての理解を深めるとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。他人の意見もよく聞いてお互いに討論して下さい。また、この1年で自分の研究テーマを絞って下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞を読む習慣をつけること（ゼミの最初に、その日の記事について質問します）
履修条件	マクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、生活経済学、経済成長論の単位を取得済みかまたは同時履修すること。
パソコン使用について	受講者はかならずパソコンを持参すること。紙での配布は、原則禁止されましたので、資料はポータルサイトに掲示します。また授業でパソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。
テキスト	予定「日本が先進国から脱落する日」野口悠紀雄プレジデント社 「異次元緩和の終焉」野口悠紀雄 日本経済出版社
参考文献・資料	「野口悠紀雄の経済データ分析講座」ダイヤモンド社 「マイナス金利」徳勝玲子 東洋経済新報社 日本経済と財政危機の本質シリーズ7「社会保障の構造問題－健康保険と医療保険の実態」深澤泰郎、 同シリーズ11「高齢者ポピュリズムに侵された国、日本！」深澤泰郎、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	輪読と意見発表と討論（70%）、年間レポート（30%）
学生へのメッセージ	日本の将来について、マクロ経済的には非常に暗い展望しか描けません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生にも、「有効なツール」となります。また卒論は日本経済に関するテーマであれば、自由としたいと思います。教員と相談してください。個人として幸福になる道をいっしょに探しましょう。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	日本の税制と社会保障	第18回	効果なしと分かっていた量的緩和をなぜ繰り返したのか？
第3回	消費税の構造と課題	第19回	弊害の大きいマイナス金利と長期金利操作
第4回	個人所得課税への期待と限界	第20回	物価上昇率目標は達成できず
第5回	年金財政 世代交代の視点と年金財政改革	第21回	消費を増加させず、格差が拡大(1) 賃金
第6回	年金制度	第22回	消費を増加させず、格差が拡大(2) 円安
第7回	健康保険財政との構造と高齢者医療制度	第23回	世界は金融緩和政策からの脱却を目指したが……
第8回	国民皆保険の現状と改革の指針	第24回	出口に立ちふさがる深刻な障害(1) 日銀の状況
第9回	給付付き税額控除の可能性と課題	第25回	出口に立ちふさがる深刻な障害(2) マクロ経済
第10回	2019年度の公的年金の財政検証について	第26回	ひそかに進む金融・経済の浸食
第11回	社会保険の構造問題 健康保険と医療財政の実態	第27回	ジャパンプレミアムが映す日本経済
第12回	高齢者ポピュリズムに侵された国、日本！	第28回	第17回～第25回のまとめとレポート作成
第13回	第2回～第12回のまとめとレポート作成	第29回	レポート作成
第14回	レポート作成	第30回	レポート作成発表と討論
第15回	レポート発表と討論	第31回	年間レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（商法・会社法）		
	ゼミ担当者名	道端 忠孝（みちはた ただよし）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	商人・会社を多方面から考察して明らかにする。
ゼミの到達目標	商人としての会社を理解する。 将来就職する会社の実体を理解できる。
ゼミの概要	商法・会社法を全体的に考察し、特に、商人としての会社の実体を明らかにしたい。 ゼミでは、最終的には、就職で希望する株式会社や、興味ある株式会社等の調査研究をレポート課題として仕上げ、プレゼンをしてもらいます。 ゼミの時間には、時折、資格取得の話や、学園祭への参加、ゼミのイベントなどにも触れます。
授業時間外の学習	1、ゼミナール開始前に資料の該当箇所に通して目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1・5時間程度) 2、ゼミナール開始前に復習をし、ノート整理しておいてください。(1・5時間程度) 3、日頃から新聞に通し、会社に関する記事を切り抜き又はメモをしておいてください。(0・5時間程度)
履修条件	特にありません。
テキスト	テキストは使用しませんが、六法は用意してください。
参考文献・資料	六法、会社法判例百選（ジュリスト）など。
成績評価の方法	・レポート報告（60%）・レポートのプレゼン（発表）（40%） ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14：30～16：30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	商法・会社法を理解して就職活動を有利に展開してください。

授業計画			
第1回	商法・会社法ゼミガイダンス、自己紹介（将来の目標など）、研究倫理教育	第17回	株主総会
第2回	商人とは、会社とは、一般人との違い	第18回	取締役会
第3回	個人企業と会社の違い	第19回	監査役
第4回	会社の課長・部長の地位と権限	第20回	取締役の義務と責任
第5回	会社の支店長と社長の地位と権限	第21回	取締役と代表取締役の違い
第6回	支店と代理店の違い	第22回	取締役と監査役の違い。
第7回	会社の種類と違い	第23回	監査役会設置会社－イオンリテール(株)－
第8回	株式会社と合同会社の違い	第24回	監査等委員会設置会社－秋田・北都・荘内・山形・青森・みちのく・岩手・東北銀行など
第9回	営利企業である会社は、なぜ社会貢献活動したり、政治献金をするか。	第25回	指名委員会等設置会社－北都銀行・荘内銀行の親会社＝フィデアホールディングス(株)や、イオン(株)
第10回	会社はみんな法人であるが、法人とはいかなる意味か。	第26回	各自の株式会社の運営体制の比較
第11回	株主有限責任といわれるが、株主は、いかなる責任も問われることはないか。	第27回	事業譲渡・会社分割
第12回	株式会社の設立－合同会社と対比して－	第28回	合併
第13回	株式のあれこれ	第29回	株式移転・株式交換
第14回	新株予約権	第30回	会社が解散するということは
第15回	株主総会	第31回	レポート報告（「就職希望のある又は興味ある株式会社の調査研究」）
第16回	定期試験（レポート中間報告（「就職希望のある又は興味ある株式会社の調査研究」））	第32回	定期試験（上記レポートのプレゼン（発表））



ゼミナール名	ゼミナールⅡ（環境学）		
ゼミ担当者名	村中 孝司（むらなか たかし）		
科目分類	専門科目群		
開講年次	3年次	開講期間	通年
開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境、食、農業、地域振興等に関する探究を通して、環境と経済の関係を読み解く。 2. 自然風景と地域資源の魅力発掘を客観的手法により方法を探究する。 3. 研究の成果を発表し、口頭や文章で表現する方法を学ぶ。 4. 自分自身が大学生4年間でやり遂げた成果を1つつくる。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食料と農林漁業に関する問題、自然風景の評価手法、生物多様性に関する問題など、多様な視点から地域課題に関するテーマを調査し、環境や地域に対する理解を深めます。 2. メンバーの発表をよく聴き、質問や意見を述べる力を身につけます。 3. 学術書や論文を読み、文章を深く理解し、自分で表現する力を身につけます。 4. 研究発表を行い、大学生としての学修の成果を形づくります。
ゼミの概要	<p>環境学ゼミナールは、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、フィールドワークを併せて実施します。自然界や社会に対する皆さんの観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①輪読、②研究の2つです。</p> <p>① 輪読：環境、自然、食文化などに関する学術書を読み、知識と考え方を身につけます。</p> <p>② 研究：研究テーマを各自（または2人以上のチーム）で決め、年度末までに自主研究レポートを作成、または、ゼミナール大会等で発表します。これは、将来、卒業論文として完成させるための準備として位置づけられます。3年生のゼミは、学問の入り口から自身の関心事を鳥瞰し、どのようなテーマに取り組むのかをよく考える期間となります。</p>
授業時間外の学習	<p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、論理的な説明の方法を学んでください。ゼミナール内外の仲間たちとも、よく議論してください。</p>
履修条件	<p>次の①、②の条件をともに満たす者としてします。</p> <p>① 研究に熱心に取り組むことができる者。</p> <p>② 環境学ゼミナールⅠを履修済みの者。環境学ゼミナールⅠ未履修の場合は、体験ゼミに少なくとも1回出席し、その場で教員からの履修の承諾を得ること。さらに、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、統計学、数的推理Ⅰ・Ⅱ、地球環境学、地域フィールドワークから4単位以上の単位を修得済みであること。</p>
テキスト	<p>ゼミナール中にみなさんと相談して決定します。なお、『総合人類学としてのヒト学』、『環境問題のとらえ方と解決方法』、『環境と社会』などから1冊を選定予定。</p>
参考文献・資料	<p>ゼミナール中に紹介します。</p>
成績評価の方法	<p>① 輪読（50%）、自主・グループ研究（発表と準備などに対して）（50%）</p> <p>② ①に対してそれぞれ、発表（50%）、他者への質問・コメント・意見・議論等（50%）</p> <p>出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 14:40～16:10、水曜日 14:40～16:10</p>
成績評価基準	<p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。研究の成果は、学内の研究発表会などで発表することを推奨しています。この1年間で自身（またはチーム）の研究を進展させ、大学で「謎を解き明かした、社会に提案した！」と自信を持っているものを1つでもつくりませんか。また、ゼミナール研修会（夏期）は、皆さんの希望を聴き、</p>

宿泊で県外の観光地へ行きます。これまで、東京、札幌、福岡、大阪、京都・奈良、仙台、盛岡などに行きました。学生相互の親睦は、研究活動によって養われることをモットーとしています。

授業計画（環境学ゼミナールⅡ）			
第1回	体験入室 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	研究⑪ 環境負荷の定量化ライフサイクルアセスメント、輪読⑥
第2回	ガイダンス ゼミの目標	第18回	研究⑫ 生態系サービス 調整サービス、供給サービス 文化的サービス、基盤サービス
第3回	研究① 学術研究とは 学問的意義、社会的意義 研究のプロセス	第19回	研究⑬ 生物多様性 生物多様性保全の意義 輪読⑦
第4回	研究② 学術論文、先行研究 文献の探し方 輪読①	第20回	研究⑭ フィールドワーク 問題の発見と仮説の発見
第5回	研究③ 文献から学ぶ 知識を得る、論文の構造と表現を読み解く 輪読②	第21回	自主研究③ 研究テーマの目的と背景の構築
第6回	研究④ ワークショップ 討論の方法、アイスブレイク ディベート	第22回	自主研究④ 結論（意見や主張）、仮説の設定
第7回	研究⑤ 統計データの収集と分析 統計データを活用する 輪読③	第23回	自主研究⑤ 仮説検証に必要なデータの収集
第8回	研究⑥ アンケート調査 アンケート調査の方法 輪読④	第24回	自主研究⑥ 先行研究の調査と分析
第9回	研究⑦ 可視化 概念に定義を与える 量的データの収集方法	第25回	自主研究⑦ 研究発表練習
第10回	研究⑥ フィールドワーク 観察の記録、事実を捉えること	第26回	自主研究⑧ 発表の論理構成チェック
第11回	研究⑦ 質的データの処理 質的データと量的データ 輪読⑤	第27回	自主研究⑨ 研究成果の発表
第12回	研究⑧ フィールドワーク 農地や森林から得られる生態系サービスの評価	第28回	自主研究⑩ 研究成果の発表
第13回	研究⑨ フィールドワーク 自然、文化遺産の価値評価	第29回	自主研究⑪ 発表に対する反省
第14回	研究⑩ フィールドワーク 自然風景地の魅力評価	第30回	研究⑪ 書く、まとめる 論文執筆手順 輪読⑧
第15回	自主研究① 研究準備	第31回	研究⑫ 書く、まとめる 論文の構造 輪読⑨
第16回	自主研究② 研究のテーマ考案	第32回	定期試験